

小兒の服装に就て

醫學博士夫人 入 澤 常 子

○長所は洋服に

小兒の衣服に就きましては、男兒の方は大勢育てましたから考へもございませぬが、女兒はたゞ一人で、それもまだ幼うございませぬから此の方の経験は至つて淺いのでございませぬ。然しながら、とにかく男女共子供にはすべての點から洋服が勝つて居ると存せられます。改良服の工夫もいろ／＼ございませぬが、改良の要點は袖がきつちり致すことと、裾が自由に開くことにありますから、やはり洋服型となるのでございませぬ。それ故、なまなかの工夫よりは在來の洋服を用ひて居るわけでございませぬ。

男兒に日本服を着せませぬと丈は膝から下二寸位

にして置きましても、やはりズボンをきつちり穿いた輕快さには及びませぬ。どこか運動に窮屈なところがございませぬ。女兒ならば袴をつけませばともかく、着丈をさう短くしては恰好が悪くて困ります。それで日本服を着せませぬと子供は自然靜かな遊びを致します。日本服は赤や青や色どりの美しい模様があるために、一時は喜びませぬが、二三日も着つゞけてませぬと厭がつて袖が重いから羽根がつけないなどと申します。

○利用の自由なこと

第一に洋服のよい點は利用がよくきくことでございます。洋服は利用できないと仰有る方がよくありますが、頭腦さへ働らかせれば日本服以上に

自由で便利でございます。私の幼い頃の洋服を今でも子供に着せられます。何十年昔の型でも作り直して足りない所にはずん／＼違つた切れを用ひます。眼ざわりになればレースを被ふとかいふ工夫が出来ます。袖が短かけれで袖先を三寸位足すのも容易いことですし、胸はあけてしまつて下着を見せるやうにしてもよいのでございます。袖先だけ痛んだやうな場合には、洋服地は重寶なことについても同じ地質がありますから、袖だけとりかへることも出来ます。肩の方と色の變りなどがあつてもエプロンをかければ差支へございませぬ。斯様に致しますと、小さい洋服でも六七才迄充分利用が出来ます。それが日本服でございませぬ、第一違つた切れの綴合せが出来かねる次第でございます。

○大人物を作り變へて

大戦以來、毛織物は殊に高價になりましたから

若い頃のコート等を用ひて作ります。私の實家などでは母の身につけました洋服、明治の初年頃用ひましたのを、いま迄そのまゝ持ち傳へましても無益なことでございますから、此の頃とり出しまして特別なものは除き、大方は作り直して子供の新しい洋服に致しました、西洋風では小さい子供程、じみに致しますから、茶や紺、黒などがそのまゝ用ひられます。大して手置きもしてないやうでございましたが、蓋のよく出来る長持に納めてましたのが、蟲もつかないでありました。地質さへ害なはずに居りませばお父さんのお下りでも間にあひます。

○洋服は暖かいこと

日本服よりも暖かなことは確かでございます。

そして身體をよく包んであること故、割合に薄着ですみます。たい注意すべきことは、洋服と日本服とをあれこれ交へて着ますと風をひきます。日

本服の襟元はがぶつて居り、裾も長うございますが、一體にふわ／＼として風がはいります。洋服の襟の廻りは水兵服など殊に頸部を廣く現はして足の方も靴下を穿いても裾短かでありますが、着物がびつたり體について居ります所から暖かなのでございます。それを學校へ通ふとか、外出とかの度に着更へますと身體各部の包まれ方が違ふため温度が急に變りますため、感冒にかゝるのでございます。それ故兩方を交せて用ひませんで一方に定めた方がよいのでございます。

○洋服の調製方

出來合品は布を充分に使つてありませんから、忽ち手をかけねば着られなくなりします。それ故宅では布をたつぶり使つて、三年間位は伸ばし伸ばし用ひられる様に致して置きます。男兒はズボン二着に上着一の割合に作つて、ズボンの腰に初めから綴ぎを、それも表からあてゝ置きます。宅で

は座りませんから、膝の方はあまり痛みません。女兒は宅では三歳の時着せ初めに二組（洗ひがへの爲）作り、翌年から一枚づつ作つて参りました。地質はカシミア弱うございますが、それでも二年は保ちます。ラシヤや、ピロードならば切れることは殆んどございませぬ。地質によつて早く痛むことがあつても前に申したやうにその部分だけ換へますから、厭きる程用ひられます。夏物は白いものが洗濯がきいてよろしうございます。洋服はさつぱりした好みがよいので、日本流に考へますと綺麗な柄合を用ひたくなりますが、見よいものではございませぬ。格子縞、辨慶等も小さい子供程細かい方がよく、大きい縞は下品になります。洋服を用ひるとすれば、何れの家庭でもせめて下着は手製にしたいものです。手縫でも縫目を、も一度縫ひ返せば差支へございませぬ。

○和服に加へる工夫

和服もまだく用ひられるものとし、男
兒の羽織などは裏表兩用にして置くべきものと思
ひます。重くなると申しても、丈の半分以上も返
しがある事を思へば大したことはない筈です。表
裏別々の布を使つて、裾で合せてもようございま
す。そして肩すべりだけ、少し横切れでもつけて
置きます。裏返して着る時に汚れのまゝでは用ひ
られませんから、濡れ手拭を當て、熱いアイロ
ンをかけて汚れをとつて用ひます。着物も斯うし
て用ひられます。女兒にはメリンスの無地を裏に
使つて襦スリを挟んで縫ひますと、裏がへした時の赤
や紫や、萌黄の無地が綺麗なものでございます。

○慣れさへすれば

洋服を着せ慣れますと、日本服が手のかゝるこ
とをお感じにならぬ方はございますまいと存じま
す。日本服で子供を自由に遊ばせて置きますと、
一月は着續けられません。着物を汚さない程の子

供は弱い子供でございます。

洋服を着て育ちました子供は體が眞直に、胸が
張つて、姿勢が正しくなります。その代り日本服
を着せますと帯などが落ちつかないと申して苦心
する方もございますが、これも考へやうであらう
と存じます。(文責記者)